中国の文化IX 第14回

まとめ

漢字の誕生から三国志の成立まで

中国の文化IX 第２回

殷代

漢字の誕生

文字は人類がことばを記録するために発明した最初の装置である。文字の誕生によって人類は時間や空間を越えて、ことばを伝えることを可能にした。

中国で発明され、やがて東アジアの共通文字となった漢字はいつごろ誕生したのであろうか。

亀甲に刻まれた甲骨文字

甲骨文字の発見

一八九九年、中国では歴史学者たちの認識を変える画期的な事件が起こった。亀甲や獣骨に刻まれた謎の古代文字「甲骨文字」の発見である。

資料映像：ＮＨＫスペシャル「故宮」より

亀甲に刻まれた甲骨文字

甲骨文字の発見

甲骨文字は、亀甲や獣骨を使って神意を占った記録が刻まれていた。

甲骨文字の発見と解読により、中国文明圏の文字である漢字は、約三三〇〇年ほど前の殷代に誕生していたことが明らかとなった。

また、甲骨文字が発見された河南省安陽県小屯村からは、殷王朝の実在を証明する遺跡「殷墟」が発見された。

資料映像：ＮＨＫスペシャル「故宮」より

世界文化遺産に登録された殷墟

殷墟は2006年、世界文化遺産に登録され、いまも広大な遺跡として保存されている

中国の文化IX 第３回

周

采詩の官と詩経

殷周革命

殷代には、王が占いによって神意を伺い政治を行う祭政一致の神権政治が行われていた。

殷を滅ぼした周は、天は地上の有徳なる人物に命を下し、天に代わって人々を治めさせるという天命論により、王朝交代の正当性を理論づけるとともに、為政者が自らを律する政治思想とした。

采詩の官と詩経

天命論は殷代の神権政治に代わり、周代の徳治政治――神託を受けた有徳者が責任をもって人々を治めること――に理論的な根拠を与えたが、その一方で為政者の徳が衰え、民心が離れれば、天命は他の有徳者に移るものとされた。

このため周は各地の風俗を理解し、政治の得失を知るため、采詩の官を設け、民間に伝わる歌謡を採集した。

こうして集められた詩は、後年、孔子によって教団のテキストとされ、儒家の経典の一つ『詩経』となった。

『詩経』と『万葉集』

政治の得失を知るため、民間に伝わる歌謡を採集するという采詩の思想は、日本にも影響を与えた。

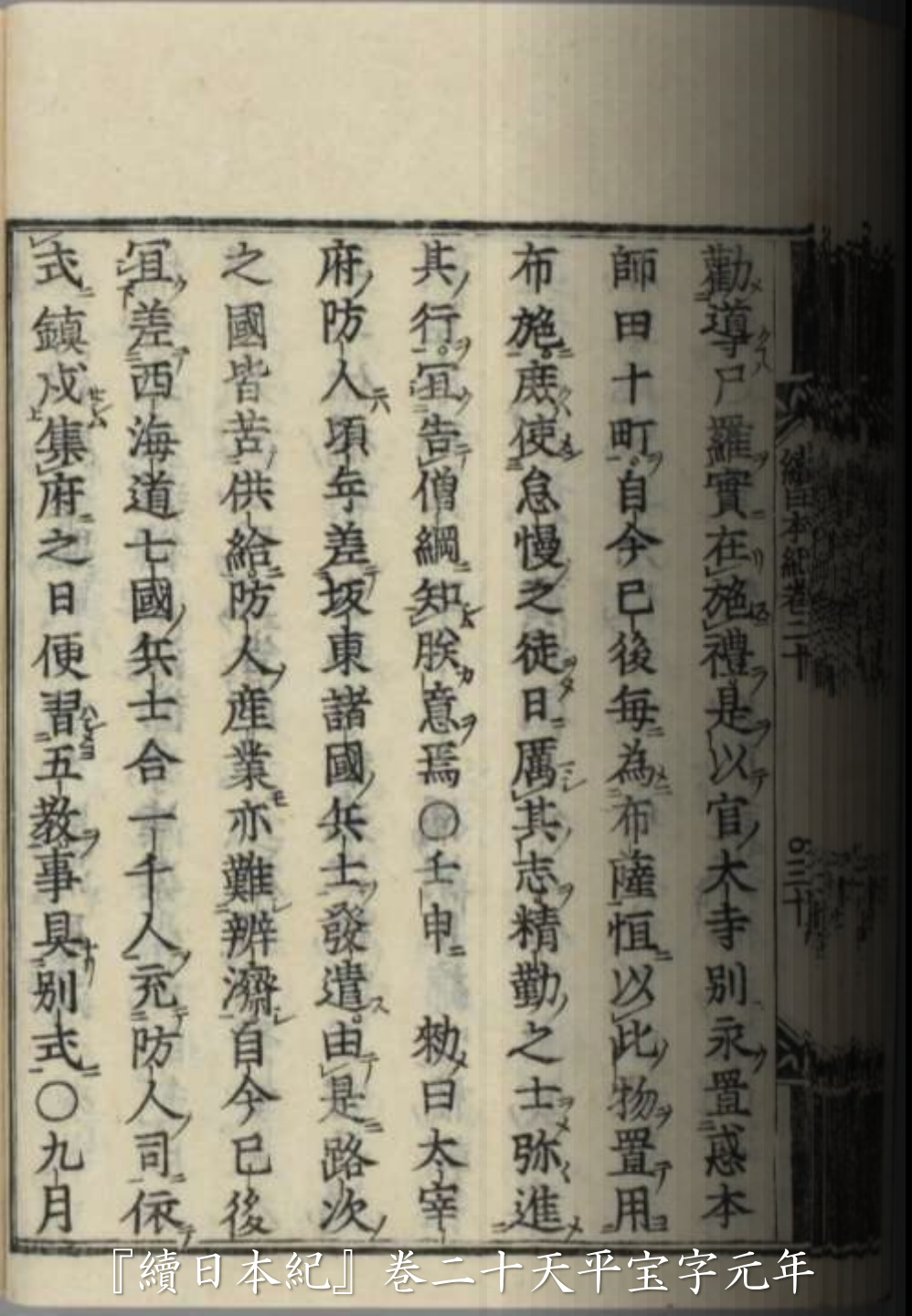
古代史上、最大の対外戦争となった白村江の戦いにより、中国や朝鮮半島との緊張が高まると、朝廷は東国から数千人の若者を防人として徴用し、九州一帯の防衛に当たらせた。

七五五年（天平勝宝七年）二月、兵部少輔（ひょうぶのしょう）として筑紫に派遣される防人たちの監督に当たった大伴家持は、故郷に残してきた家族や恋人を思う若き兵士たちの歌に心打たれ、これを『万葉集』の中に収めた。

采詩の思想と問民苦使

采詩の思想は、実際の政策にも影響を与えた。大伴家持が防人たちの歌を記録してから二年後の天平宝字元年(七五七年)閏八月、孝謙天皇は大宰府の防人に板東諸国の兵士を派遣するのをやめ、西海道七国の兵士を当てるよう勅命を下した。

翌天平宝字二年(七五八)には、采風の官に倣って問民苦使が各地に派遣され、賦役の軽減や貧病者の救済が行われた。



勸導尸羅實在施禮是以官大寺別永置悉本
師田十町自今已後每為布薩恒以此物置用
布施庶使怠慢之徒日厲其志精勤之士彌進
其行宜告僧綱知朕意焉○壬申　勅曰太宰
府防人頃年差坂東諸國兵士發遣由是路次
之國皆苦供給防人產業亦難辨濟自今已後
宜差西海道七國兵士合一千人充防人司依
式鎮戍集府之日便習五教事具別式○九月

『續日本紀』巻二十天平宝字元年

中国の文化IX 第４回

春秋戦国時代

儒教の誕生

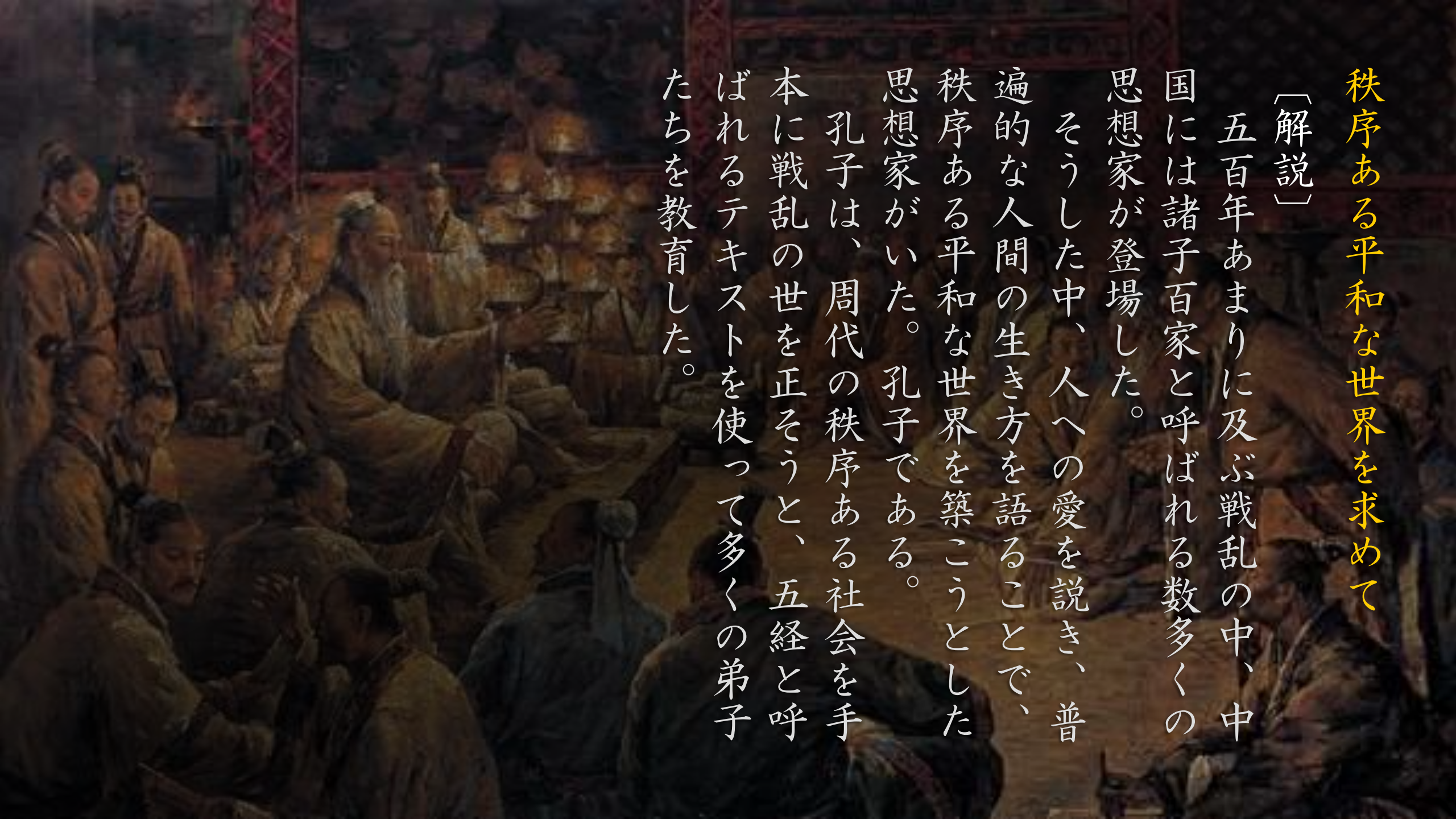
春秋戦国時代

周は神権政治の殷を滅ぼし、天命論に基づく徳治主義によって人間中心の秩序ある社会を築いた。

しかし、その周も建国から二百年あまりが過ぎると、たび重なる失政によって内乱を招き、紀元前七七〇年、都を洛陽に遷した。（周の東遷）

以後、周室は衰微し、秦が全土を統一するまでの五五〇年の間、中国は戦乱と下剋上の時代を迎える。

この時代を春秋戦国時代という。



秩序ある平和な世界を求めて

〔解説〕

五百年あまりに及ぶ戦乱の中、中国には諸子百家と呼ばれる数多くの思想家が登場した。

そうした中、人への愛を説き、普遍的な人間の生き方を語ることで、秩序ある平和な世界を築こうとした思想家がいた。孔子である。

孔子は、周代の秩序ある社会を手本に戦乱の世を正そうと、五経と呼ばれるテキストを使って多くの弟子たちを教育した。

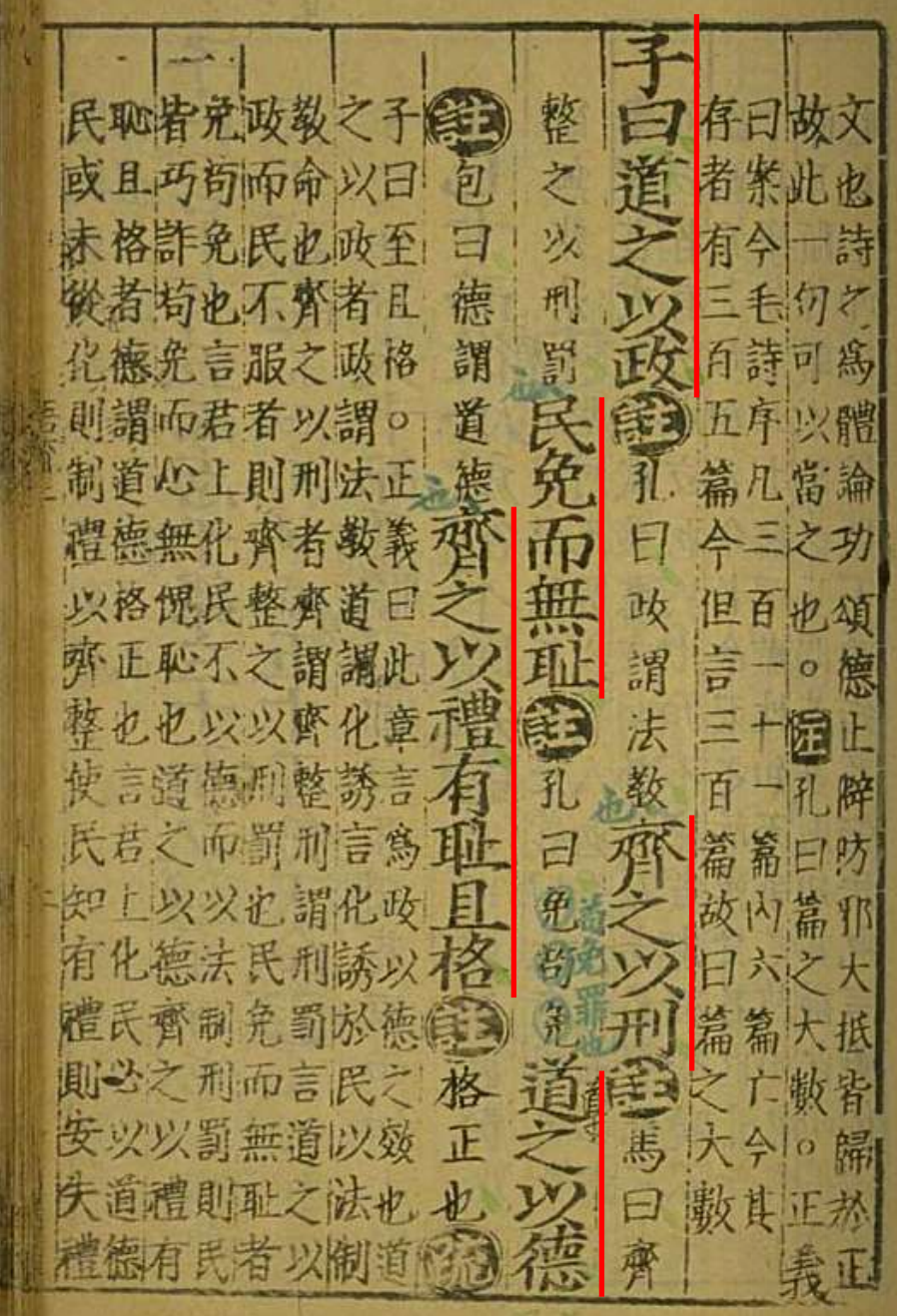
孔子の思想とは

〔解説〕

孔子は法律や刑罰ではなく、道徳や礼儀によって秩序ある社会を築くべきと訴えた。

「子曰く、之を道(みちび)くに政を以てし、之を斉(ととの)うるに刑を以てすれば、民は免れて恥無し。之を道(みちび)くに徳を以てし、之を斉(ととの)うるに礼を以てすれば、恥あり且つ格(ただ)す。」

論語為政第二


子曰道之以政注孔曰政謂法教齊之以刑注馬曰齊整之以刑罰民免而無恥注孔曰免苟免道之以德注包曰德謂道德齊之以禮有恥且格注格正也

論語註疏解經二十卷(京都大学附属図書館蔵)

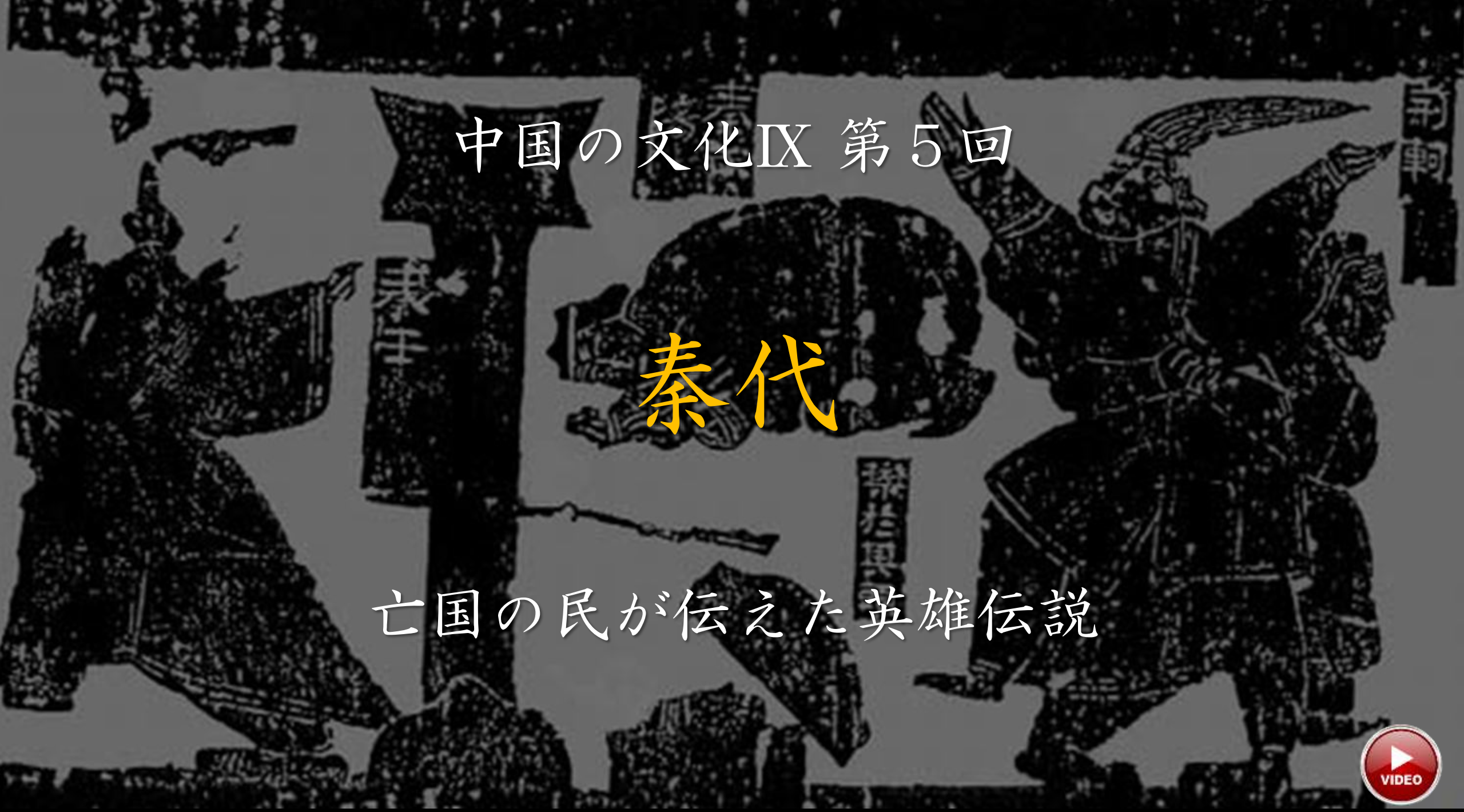
『論語』学而篇(大内兵衛書)

儒教と東アジア

道徳や礼儀によって秩序ある社会を築こうする孔子の思想は、秦代には厳しく弾圧されたものの、漢代には国教となり、以後二千年にわたって中華文明の精神的支えとなった。

その思想はやがて東アジアの国々にも広まり、朝鮮半島では李氏朝鮮の時代に儒教が官学となり、日本でも江戸時代に武士の正学となると、東アジアに二五〇年に及ぶ平和で安定した国際秩序が築かれた。

＊左の写真は、戦後の法政大学の発展に貢献した大内兵衛総長が、旧五十五年館校舎の壁に掲げた『論語』の中の一節。現在は大内山校舎の一階に掲げられている。



中国の文化IX 第５回

秦代

亡国の民が伝えた英雄伝説

資料映像：ＮＨＫスペシャル「故宮」より

亡国の民が伝えた英雄伝説

戦国時代の末期、法家思想に基づく富国強兵策によって唯一の超大国となった秦は、秦王政(のちの始皇帝)の時代、その圧倒的な軍事力によって東方の国々を次々と滅ぼしていく。

迫りくる秦の脅威を前に、燕国は国の命運を荊軻という一人の刺客に託す。

紀元前二二七年、荊軻の秦王政暗殺は失敗に終わったが、秦によって国を奪われた亡国の民たちは、その英雄伝説を語り伝えていった。

VIDEO

中国映画「異聞始皇帝謀殺（秦頌）」(1996年制作)より

それから一三〇年後、司馬遷はこれらの伝承をもとに荊軻の伝記を書き、その著『史記』の中に加えた。

一方、この伝承は「燕丹子」という書にもまとめられ、これを収録した『永楽大典』巻四九〇八が、ドイツのベルリン国立民族学博物館(Museum für Völkerkunde, Berlin)に所蔵されている。この書は、平安時代に日本にも伝わっていたことが、八九一年ごろ藤原佐世が撰した『日本見在書目録』からわかっている。

秦の滅亡

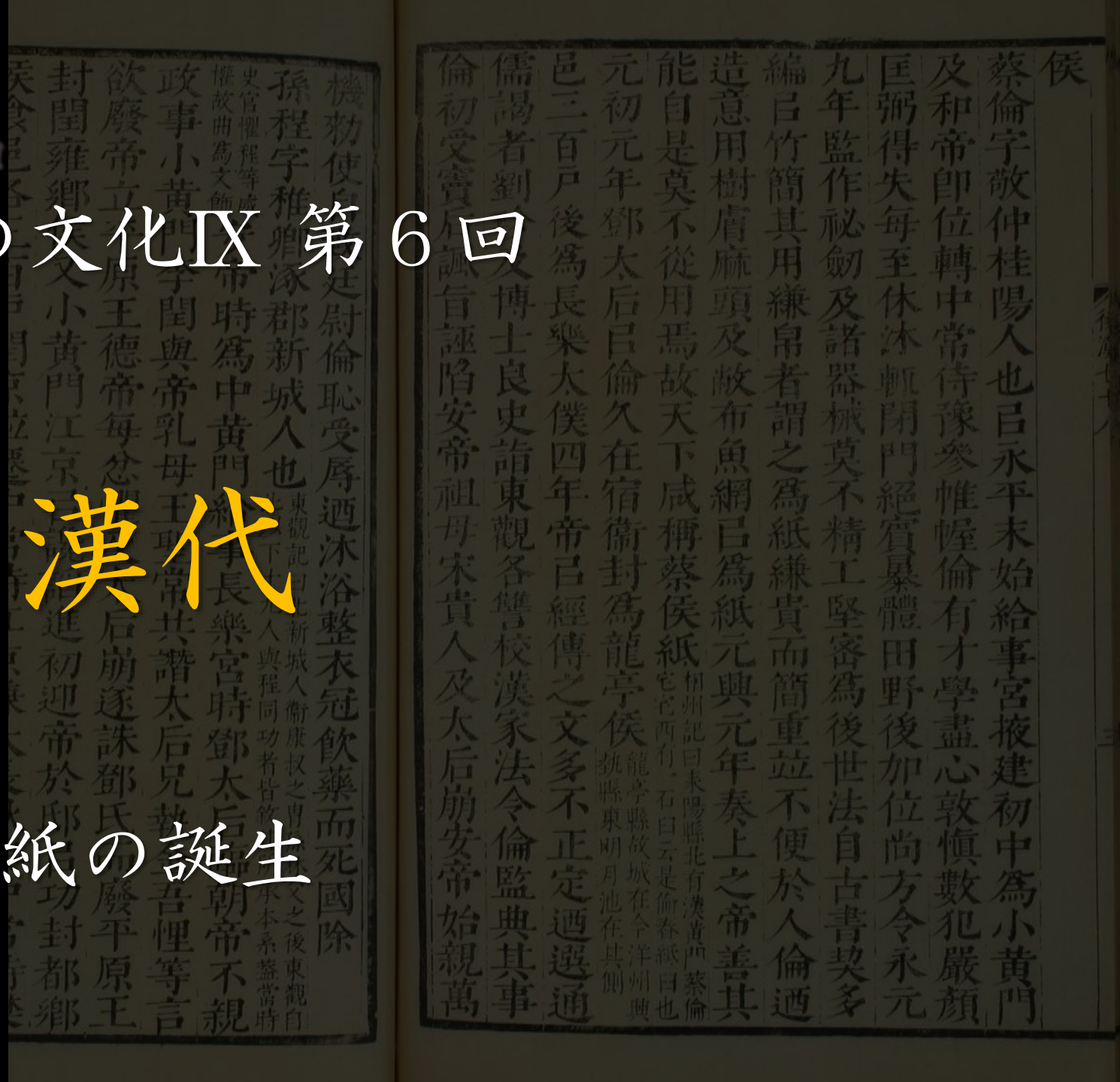
中国史上初めて全土を統一した秦であったが、孔子がかつて予言したとおり、法家思想による苛酷な厳罰主義は、やがて民衆の反乱を招き、わずか十五年で滅亡した。

秦の後を受けた漢王朝は、儒家思想を国教化し、四百年に及ぶ秩序ある安定した社会を築いていった。

中国の文化IX 第６回

漢代

紙の誕生



パピルス

古代エジプトでは、カヤツリグサ科の植物の茎の髄を使い、パピルス(Papyrus、paperの語源)と呼ばれる書写材料が作られていた。

カヤツリグサ科の植物の茎とパピルス

羊皮紙

中東やヨーロッパでは、動物の皮から作られた羊皮紙(Parchment)が広く使われていた。

羊皮紙に書かれたシナイ写本(4世紀？)

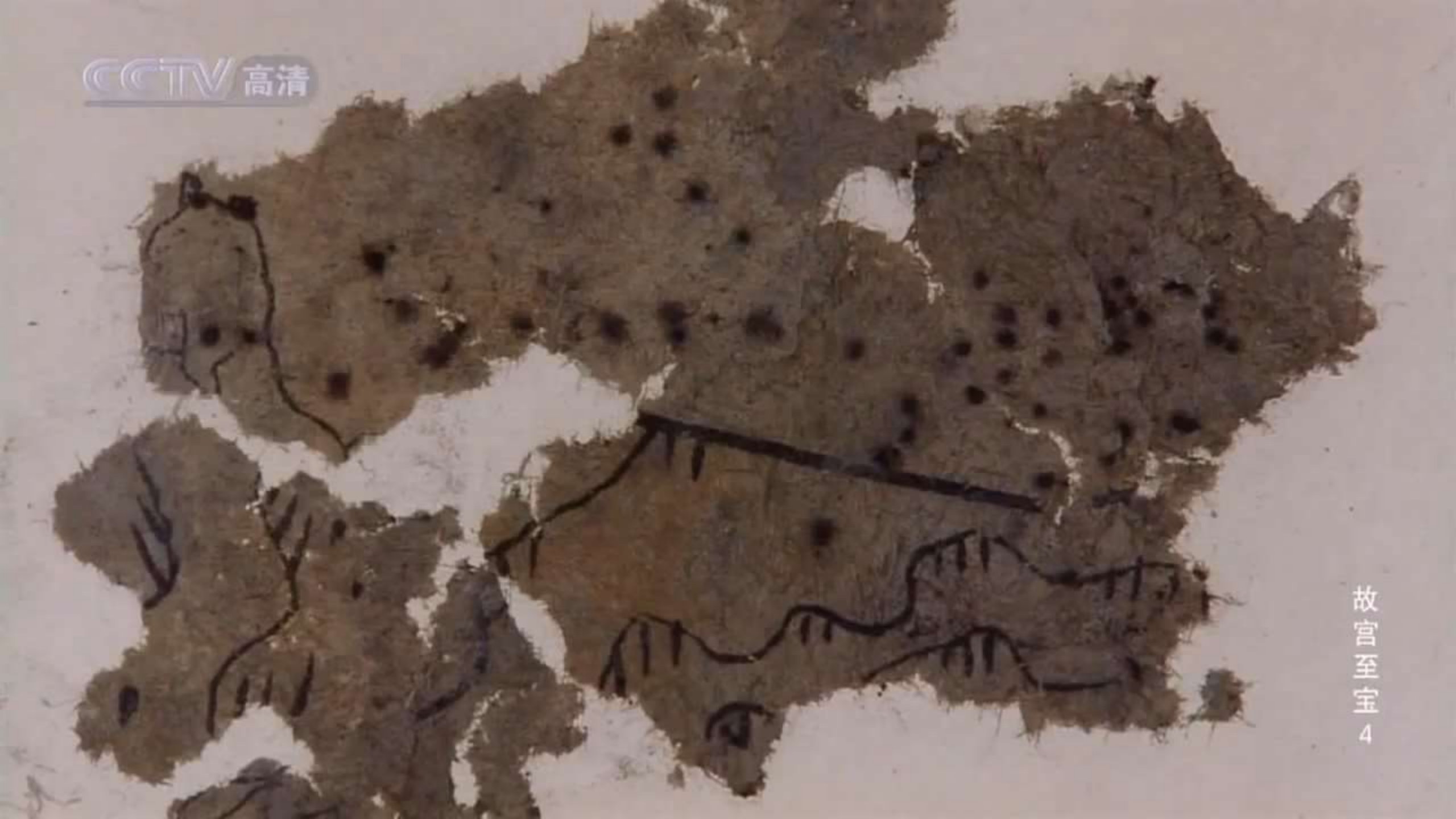
絹布・木簡・竹簡

古代の中国では、書写材料に絹布・木簡・竹簡が使われていた。

前漢時代に誕生した紙

中国では、漢代になると、新たな書写材料として紙が誕生した。

誕生の時期については、『後漢書』の記事をもとに「紙は西暦一〇五年、後漢の蔡倫が発明した」というのが通説であったが、二十世紀になって蔡倫以前の紙が続々と発見され、前漢時代にはすでに誕生していたことが明らかになった。


CCTV 高清
故宫至宝 4

前漢時代の紙の発見

〔解説〕

蔡倫は後漢時代の人である。ところが二十世紀に入り、中国各地の遺跡から前漢時代の紙が発見された。

その結果、世界史の教科書に紹介されている「紙は西暦一〇五年、後漢の蔡倫が発明した」という説は否定され、現在では蔡倫は紙の原料や製造法の改革者と評価されている。

中国の文化IX 第７回

魏晋南北朝時代(上)

南北分裂の時代の中で

民族間の抗争と共生の時代へ

魏晋南北朝時代を境として、中国は新たな時代を迎える。漢民族と周辺の異民族が交互に国土を支配するようになったのである＊。

儒教を中心に高度な文明社会を築いた漢族と、それに対抗すべく世界から優れた文明を携えて中原を狙う異民族たち。

民族間の抗争と共生の中で多様な文化が生まれ、中国はさらにその文明を発展させていった。

＊右年表中、緑色（■■■）の部分が異民族が支配した王朝

梁山伯と祝英台

祝英台は上虞の祝氏の娘である。男装して（都会の学校に）遊学し、そこで会稽の梁山伯といっしょに勉強した。

（唐）張読 宣室志（（清）梁章鉅 浪跡續談巻六所引）

祝英台は先に帰郷し、二年後、山伯は英台の家を訪ね、はじめて彼女が女の子だと知った。山伯は父母に頼んで英台に結婚を申し入れたが、英台はすでに馬氏と婚約していた。山伯はのちに鄞県の知事となったが、病に倒れ、鄮城の西に葬られた。

梁山伯と祝英台（唐）張読 宣室志（（清）梁章鉅 浪跡續談巻六所引）

　馬氏に嫁いでいく途中、舟が墓場の近くを通ると、風と波が起こり前に進むことができなくなった。たずねてみると、そこには山伯の墓があるという。英台は舟を降りて泣いた。すると突然、大地が割れ、英台はその中に埋まってしまった。

梁山伯と祝英台（唐）張読 宣室志（（清）梁章鉅 浪跡續談巻六所引）

東晋の丞相・謝安は皇帝に上奏して、この墓を義婦塚と名づけた。

梁山伯と祝英台（唐）張読 宣室志（（清）梁章鉅 浪跡續談巻六所引）

映画「梁祝」（1994年、音楽はバイオリン協奏曲「梁祝」より）

北方民族の女性英雄叙事詩＝木蘭詩

樂府詩集巻二十五所収

【解説】

南朝の「梁山伯と祝英台」と同じく、北朝にも男装した少女を主人公とした叙事詩がある。鮮卑族が建てた北魏時代の民謡・木蘭詩である。

南朝の礼教世界とは対照的に、女性の社会的地位が高かった北朝では、父に代わって戦場に行った少女の活躍が生き生きと描かれ、後世の俗文学の女性像に大きな影響を与えた。

劉凌滄「木蘭従軍」図

資料映像：ディズニー映画「ムーラン」より

中国の文化IX 第８回

魏晋南北朝時代(下)

東アジアの世界宗教となった仏教

四世紀以降、世界は新たな民族抗争の時代を迎える。

ヨーロッパでは、ゲルマン民族が西ローマ帝国を滅ぼし、フランク王国を中心とする諸王国を建国する。

中国では鮮卑族などの周辺民族が、中原の漢民族支配層を江南へと駆逐し、北朝の諸王朝を建国する。

新たな支配者となった彼らは、言語も習俗も異なる諸民族を統合するため、ヨーロッパではキリスト教、東アジアでは仏教を新たな世界宗教として普及させていった。

東アジアの世界宗教となった仏教

ヘブライ語やギリシア語で書かれた聖書の原典がローマのヒエロニムスによってラテン語に翻訳されていたころ、中国では西域僧の鳩摩羅什（クマーラジーヴァ、三四四～四一三）が北朝の後秦の都・長安に招かれ、仏教経典の翻訳に当たっていた。

当時の仏教は単なる宗教ではなく、政治・軍事・医学・科学などを含む総合文化であった。

中原の漢民族支配層を江南へ駆逐し、北朝の諸王朝を建国した異民族は、漢民族の高度な文明に対抗するため、西域僧を顧問に招き、仏教の力で諸民族を支配しようとした。

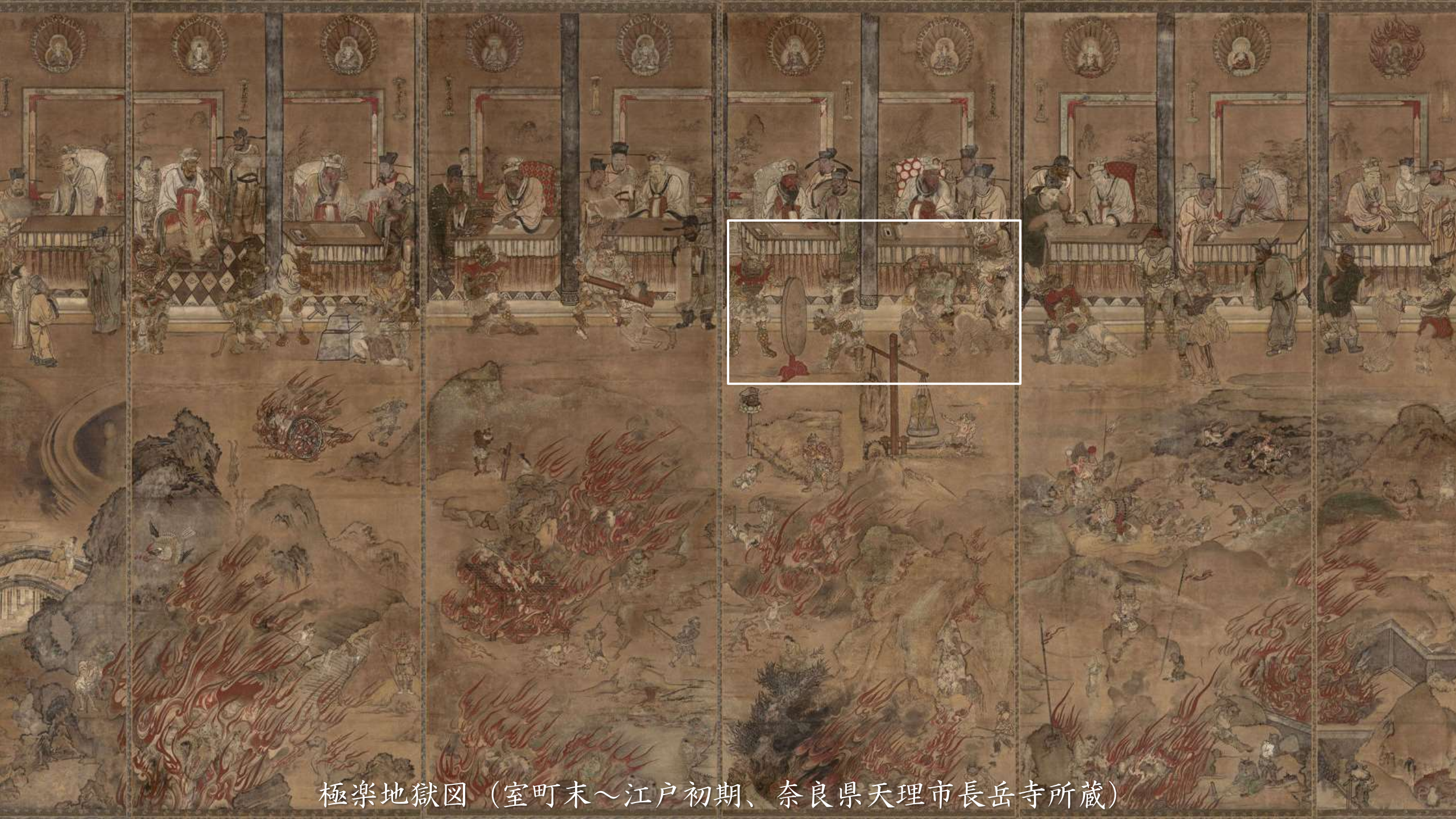
サンスクリット語で書かれた仏教経典が、東アジアの共通語である漢語に翻訳されたことにより、仏教は東アジアの世界宗教へと発展していった。

心の救済としての宗教

中華文明の精神的支えとなっていた儒教は、秩序ある平和な世界を築くため、人々に正しく生きることを説いた。

しかし、正しく生きた人間が、必ずしも幸福になれるわけではない。善人にも悪人にも死は等しく訪れる。死後、人はどうなるのか。宗教ではない儒教は、その疑問に答えられなかった。

後漢末から魏晋南北朝時代へと続く戦乱の中で、人々は宗教である仏教に心の救済を求めた。



極楽地獄図（室町末～江戸初期、奈良県天理市長岳寺所蔵）

浄玻璃鏡に映し出される生前の悪行

中国の文化IX 第９回

隋唐時代

敦煌文書の世界

仏教の隆盛と敦煌文書の世界

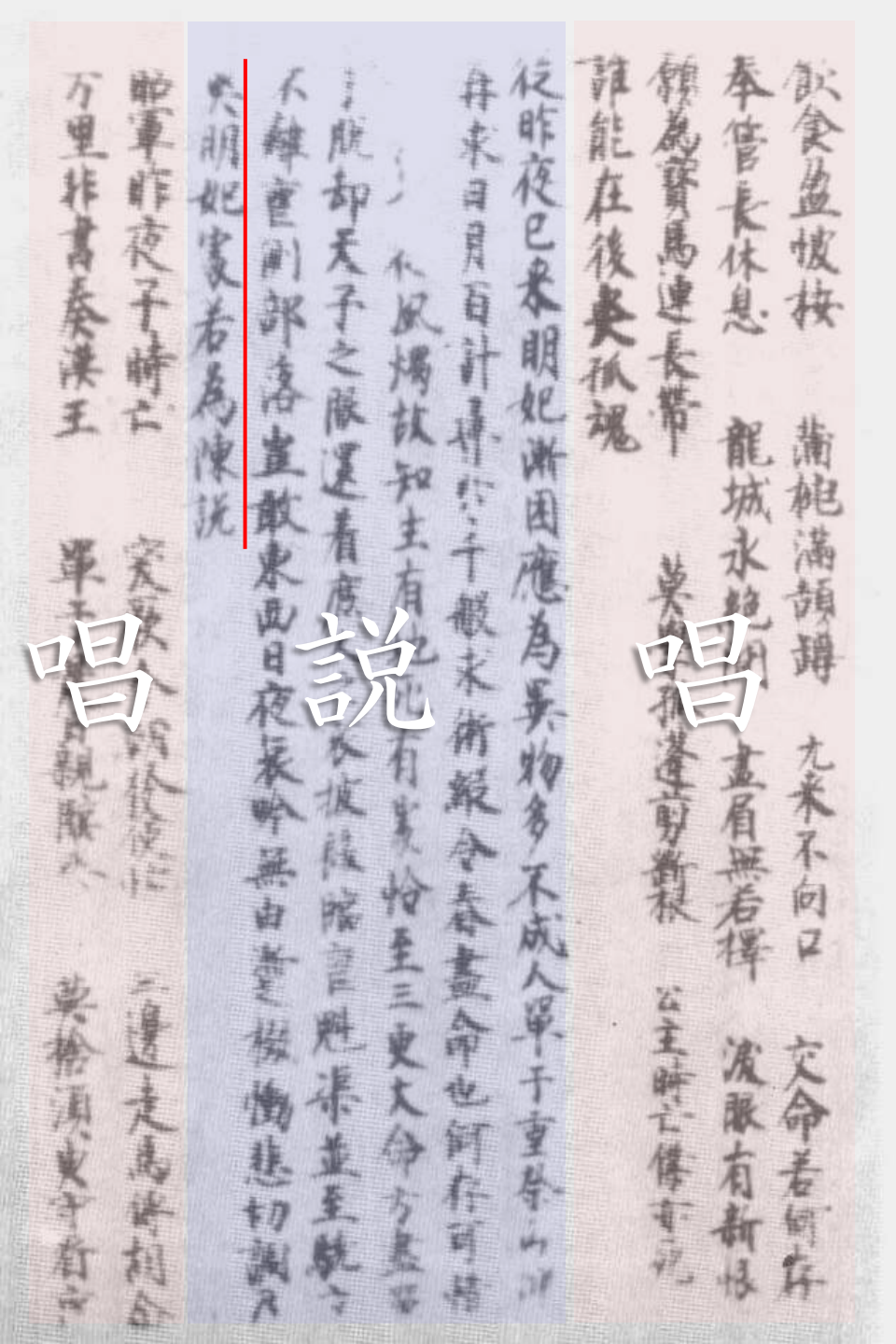
仏教が黄金時代を迎えた隋唐時代、中国の寺院では、仏の教えをわかりやすく人々に伝えるため、「変文」という絵解き講釈が行われていた。

「変文」はやがて民間でも行われるようになり、王昭君の物語を語る女性芸人がいたことが、唐代の詩から知られていた。

一九世紀の末、シルクロードの仏教石窟から、四～十一世紀までの数万点の古文書が発見され、その中から王昭君の変文の台本が発見された。

敦煌石窟で大量の古文書が発見される(1900年)
清朝
VIDEO

敦煌莫高窟第17窟(ＮＨＫスペシャル「敦煌」(後編)より)



変文の形式

〔解説〕

王昭君変文は、説(散文)と唱(韻文)を交互に織り交ぜて上演されていた。唱の部分の冒頭には「〜処、若為陳説(〜の場面、いかなる内容かといいますと)」とあり、絵巻物を見せながら歌っていたことがわかる。

こうした形式は、のちに登場する「全相平話」――全頁に挿絵を入れた口語の読み物――の誕生に影響を与えた。

道成寺の絵解き講釈

〔解説〕

和歌山県の道成寺には、室町時代に描かれた『道成寺縁起絵巻』（二巻）という絵巻物が伝わっている。

若く美しい僧に思いを寄せ、裏切られた女性が、その情欲と怨念から、恐ろしい蛇身に姿を変え、僧を追いかけ焼き殺すという物語である。

道成寺ではいまもこの絵巻物を使った絵解き講釈が行われている。

道成寺縁起絵巻(和歌山県道成寺蔵)

『道成寺縁起絵巻』絵解き講釈

和歌山県道成寺

中国の文化IX 第11回

五代十国時代

書籍出版のはじまりと詞の隆盛

唐代
(618-907)

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 | 東晋 317-420

北朝 439-589 | 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 | 北宋 960-1127

金 1115-1234 | 南宋 1127-1279

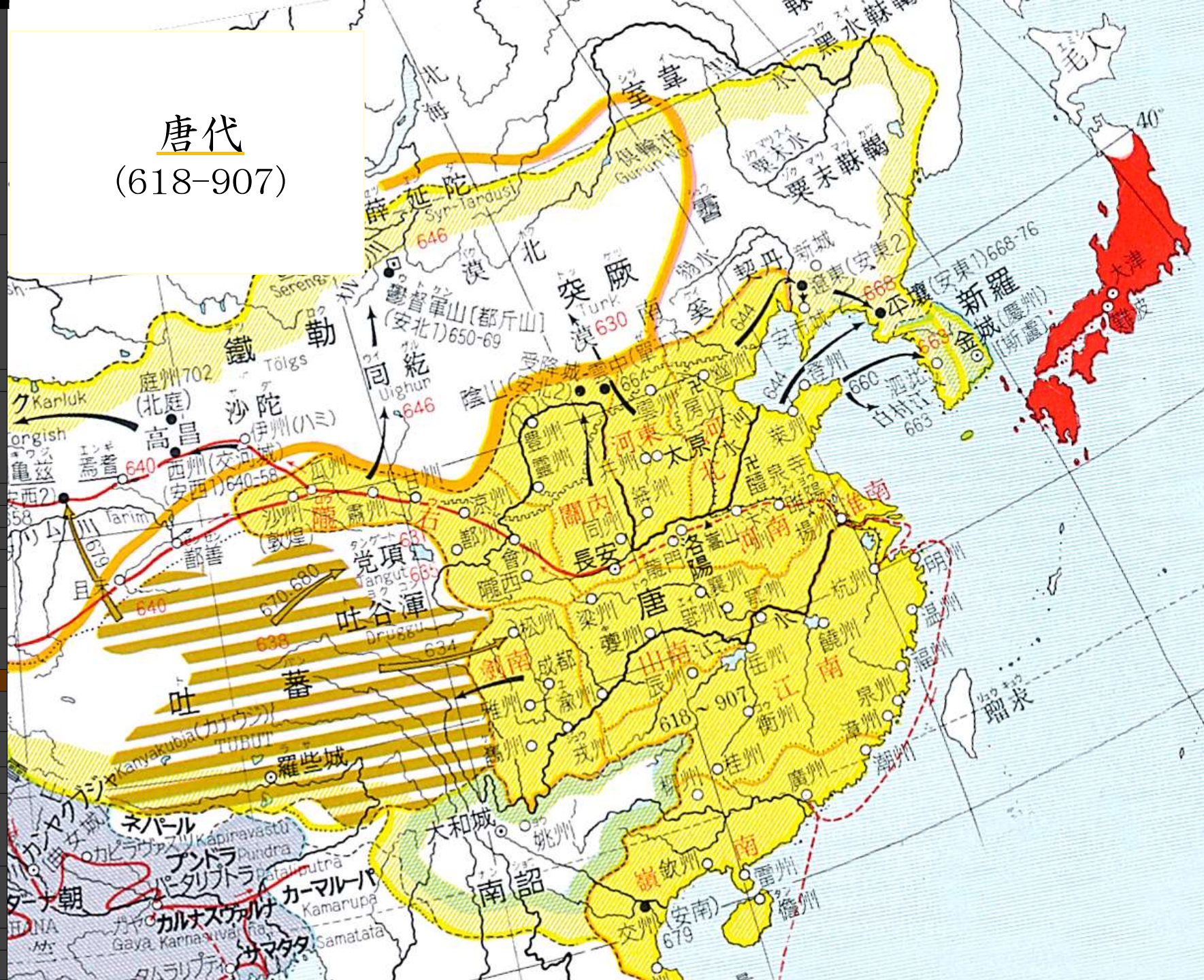
元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

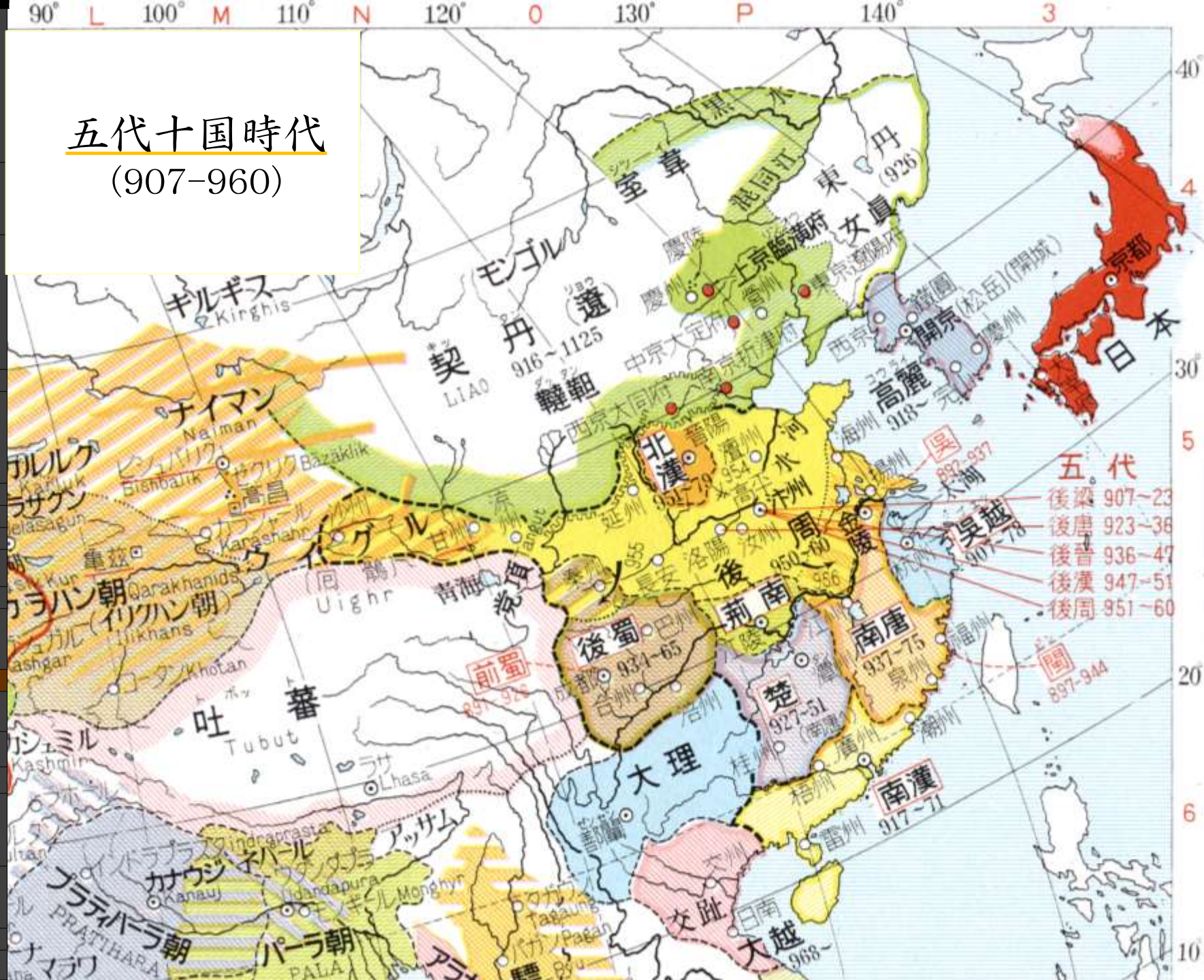
中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-



五代十国時代
(907-960)

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
殷 1600BC頃-1046BC
1200BC
1100BC
1000BC
周 1046BC-771BC
900BC
800BC
700BC
600BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
500BC
400BC
300BC
200BC
秦 221BC-207BC
100BC
0
漢 206BC-220AD
100
200
魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280
300
晋 265-316
400
五胡十六国時代 | 東晋 317-420
500
北朝 439-589 | 南朝 420-589
600
隋 581-619
700
唐 618-907
800
900
五代十国 907-960
1000
遼 | 北宋 960-1127
1100
1200
金 1115-1234 | 南宋 1127-1279
1300
元 1271-1368
1400
1500
明 1368-1644
1600
1700
清 1616-1912
1800
1900
中華民国 1912-1949
2000
中華人民共和国 1949-



出版のはじまりと詞の隆盛

唐末から五代十国時代にかけて、中国は武人支配の時代を迎えた。武人の台頭により門閥貴族が没落すると、これに代わって新たな政治の担い手となったのが、科挙出身の文人官僚たちであった。

彼らは、科挙を通じて身分や家柄に関係ない平等な社会を築くため、唐末に民間で発達した印刷技術を使って知識の普及に努めた。書籍出版のはじまりである。

身分制度なき柔構造の封建社会の誕生とともに、文学の世界でも格式ばった詩に代わり、庶民の間に生まれた詞が人々の心をとらえた。

五代十国時代
(907-960)

「唐宋変革期」

唐代以前—門閥貴族が政治の実権を握る

五代十国時代—武人の台頭により門閥貴族が没落

宋代以降—文人官僚に支えられた皇帝の独裁体制が確立

貴族文化から庶民文化へ

唐末から五代十国時代にかけての武人支配の中で、中国の文化は大きな転機を迎える。没落した貴族にかわり、庶民が新たな文化の担い手となったのである。

文学の世界では、従来の格式ばった詩に代わり、庶民の間に生まれた詞と呼ばれる俗謡が流行した。

父・李璟(りけい)とともに南唐二主と呼ばれた李煜は、その悲劇的な生涯を通じて、詞を新たなる芸術へと昇華させていった。

詞とは

詞は、わが国の都都逸に似た通俗歌謡で、既存の曲に歌詞をつけるところから填詞または曲子詞と呼ばれ、また一句の長さが不揃いになるところから長短句とも呼ばれた。

格式ばった詩とは異なり、感情をよりストレートに表現できるところに特徴がある。

李煜の詞も、当初は男女の色恋を歌ったものがほとんどであった。

和歌（五・七・五・七・七）

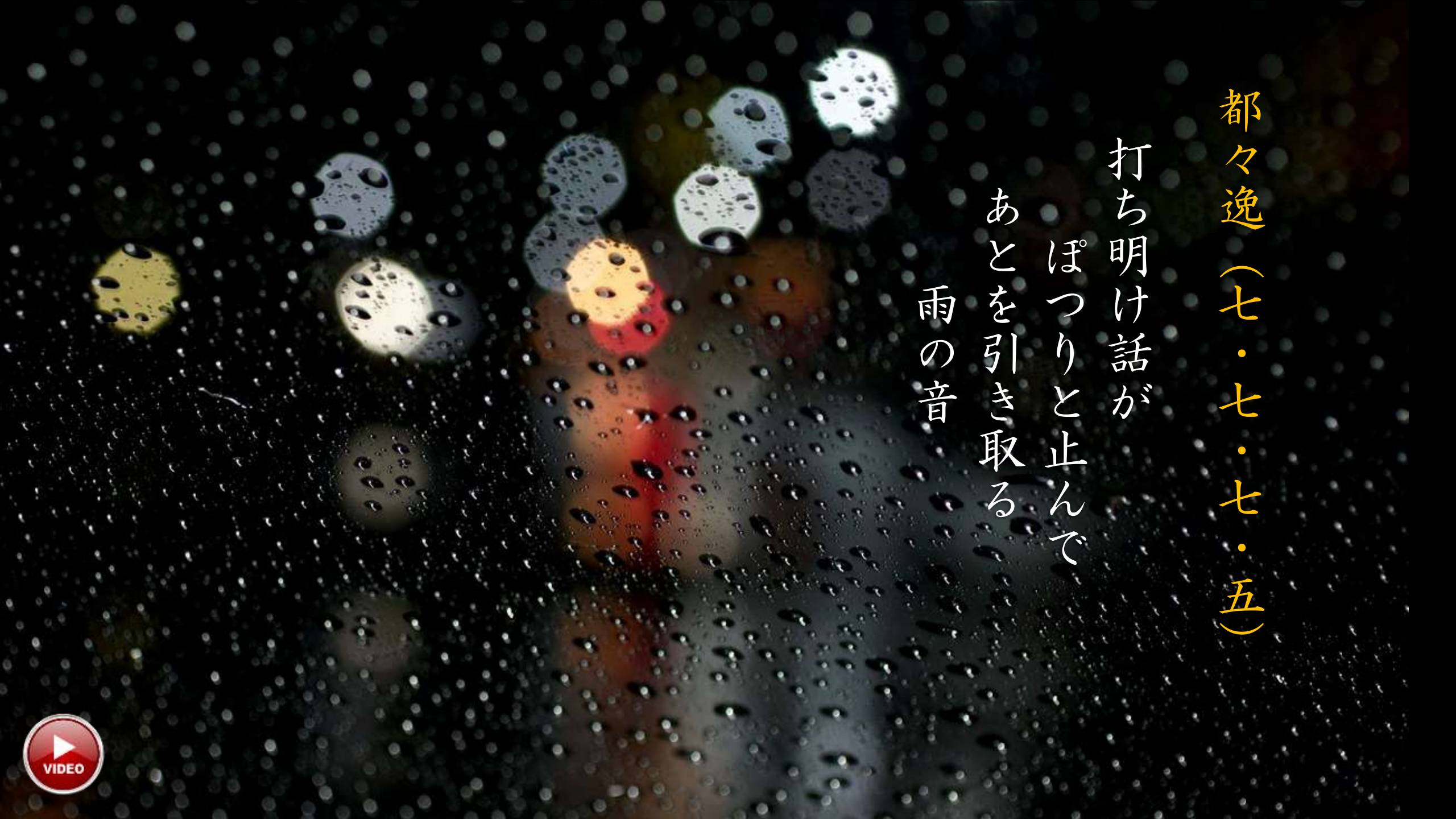
白鳥は
かなしからずや
空の青
海のあをにも
染まずただよふ

若山牧水『海の聲』より

都々逸（七・七・七・七・五）

恋に焦がれて
鳴く蝉よりも
鳴かぬ蛍が
身を焦がす

江戸中期の民謡集
『山家鳥虫歌』より


都々逸（七・七・七・七・五）
打ち明け話が
ぽつりと止んで
あとを引き取る
雨の音
VIDEO

資料映像：NHKスペシャル「故宮」より

李煜と虞美人の詞

李煜の詞は、その後、彼を襲った苛酷な運命によって大きく変わっていった。

九七五年、李煜が三八歳の時、南唐は北宋の攻撃を受け、滅亡した。俘虜として北宋の都・汴京（開封）に送られた李煜は、遥か東にある故国を思い、一闋(けつ)の詞を作った。虞美人の詞である。

CCTV 高清
故宫至宝 7

中国の文化IX 第12回

北宋時代(上)

科挙制度と“負心”文学の誕生

科挙制度と「負心」文学の誕生

唐宋変革期を経て、中国社会は貴族の時代から庶民の時代へと姿を変えていく。

科挙は、身分や家柄に関係なく、誰もが官吏となって政治に参画し、富と栄誉を得る機会を保障した。その結果、中国では社会階層の流動性が高まり、教育が普及していった。

文学の主体も貴族から庶民へと移る。韻文での詞の隆盛とともに、宋代には本格的な演劇が登場する。しかしその草創期の題材となったのは、科挙に合格した男たちの裏切りを描いた「負心」物語であった。

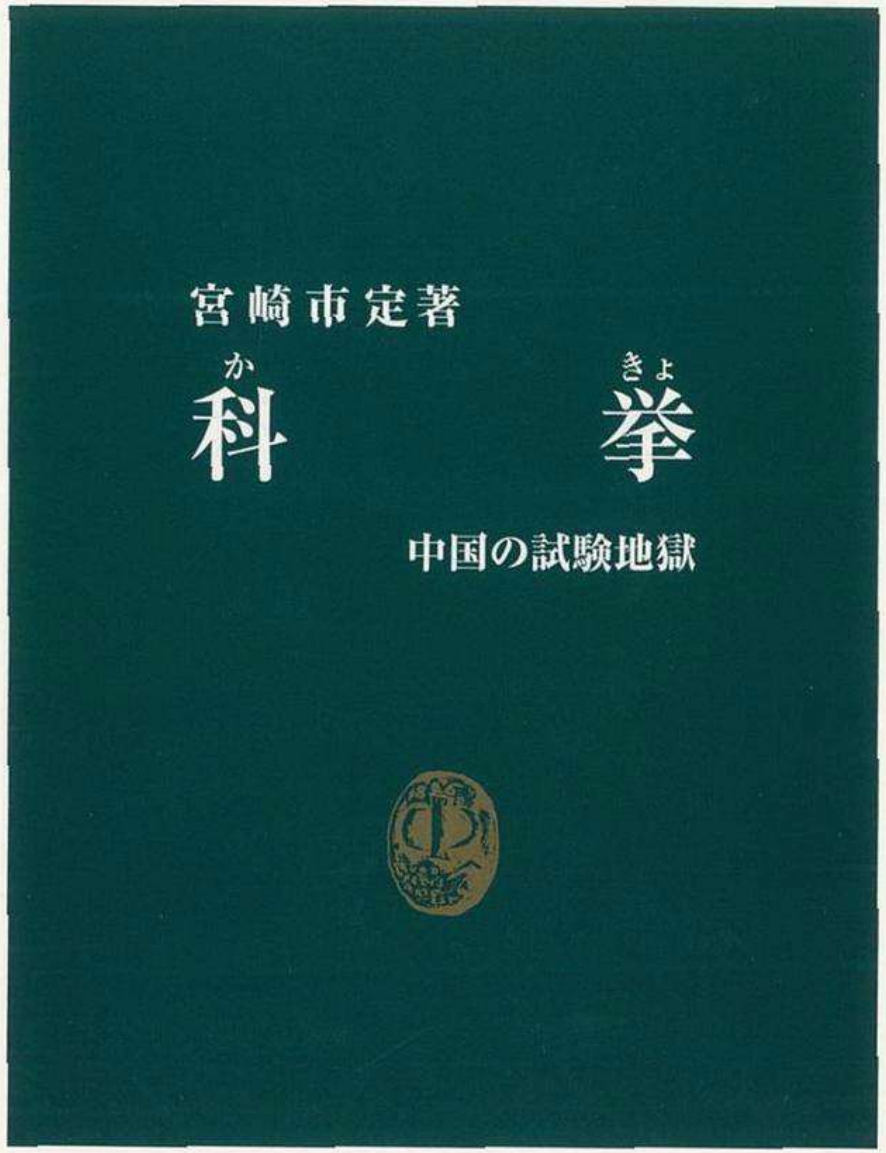
科挙制度

〔解説〕

北方の遊牧民にルーツを持つ北朝から興った隋王朝は、南朝の漢族社会に根を張る門閥貴族の影響力を排除するため、五八二年、門閥貴族に有利な「九品官人法」(三国時代の魏に始まる官吏登用法)を廃止した。

そして五八七年、これに代わる官吏登用法として、民族や身分、家柄に関係ない実力本位の試験制度である「科挙」を始めた。

隋・唐代には、門閥貴族と科挙出身者の勢力は拮抗していたが、五代十国時代の武人支配によって門閥貴族が没落すると、科挙出身者が官職を独占し、政治の実権を握るようになった。



科挙制度（清代）

〔解説〕

科挙制度が始まった隋代には、地方での郷試と都での会試が行われていたが、宋代になると、皇帝が直接試験を行う殿試が加わり、合格者は皇帝への忠誠心の高い中央官僚となった。

明代になると、科挙の受験資格を得るための予備試験（童試・学校試）が加わり、受験者は三段階の予備試験に合格した後、郷試、会試、殿試の三段階の本試験（科挙試）を受験することになった。

※[清朝末期の行政区分数(概算):22省・200府・1300県・1700国公立学校]

清代科挙試験一覧表

この情報が、皆様のお役にたちますように…。

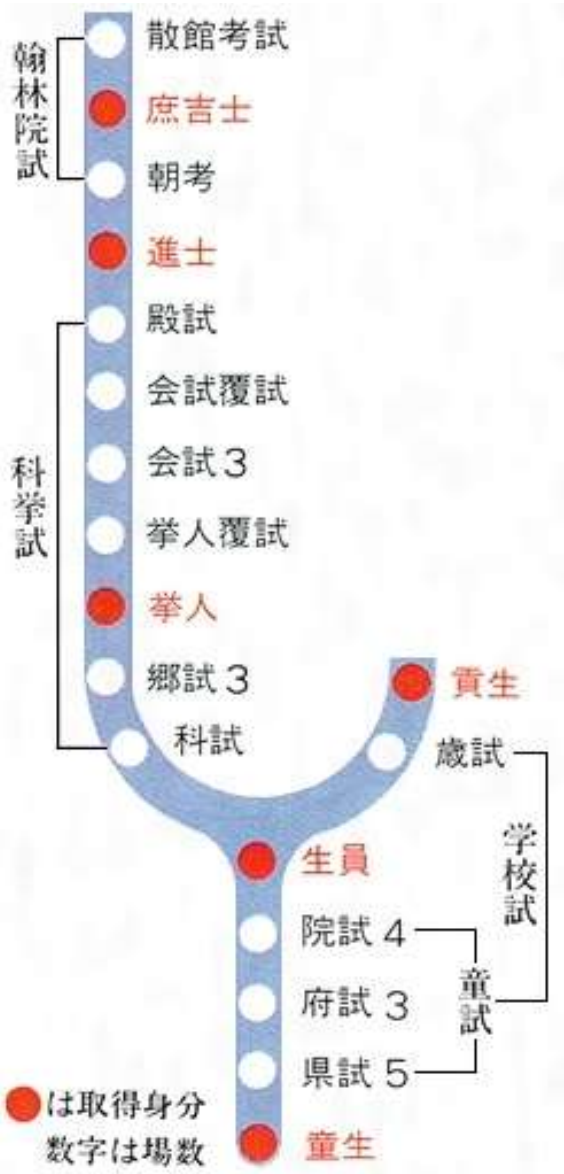
	試験名	得られる学位,資格	受験生の呼称	受験者数	合格者数	試験管,最高責任者	実施場所	実施時期	試験回数,日数	施行
学校試 童試 (どうし) 国立学校入学試験	県試 (州試)	(府試の受験資格)	童生 (どうせい) (別称,儒童) (じゅどう) (別称,文童) (ぶんどう)	各県毎に 約1500人	各県毎に 約100人	知県(知州)= 県(州)の長官	各県の県学 に付属する考棚	毎年旧暦の2月	5回 約20日間	明代 以降
	府試	(院試の受験資格)		各府毎に 約1千人?	各府毎に 約50人	知府=府の長官	各府(府城)の 試院=考場=考棚	毎年旧暦の4月	3回 約3日間?	
	院試	生員 (歳試,科試 の受験資格)		各試院毎 約1千人?	各試院毎 約25人	各省の学政 (皇帝が中央から 各省へ派遣) 学政=提学=提督学政	府学,県学 など 各府,各学校 の試院にて	3年間に2回	4回 約10日間?	
国立学校 実力試験	歳試 (必須) (学力判定試験)	(成績優秀者のみ国子 監への転学資格)	生員 (せいいん) (別称,秀才) (国立学校の生徒)	46万人	成績 6等に分			学政が3年間に2回巡回 1巡目に、歳試 2巡目に、科試 その両方で院試も行う	1回 1日間	
科挙試 本試験	科試 (非必須) (郷試の予備試験)	挙子 (きょし) (郷試の受験資格)		10万人	1000人				1回 1日間?	
	郷試 (きょうし) (本試験の 第一関門)	挙人 (きょじん) (挙人覆試の 受験資格)	挙子	6万5千 ～ 14万人	1300～ 1400人	正考官 (中央から派遣された 特別な官吏) (中央政府特派官員)	北京,省府, 首府 (各政府 所在地) の貢院にて	3年間に1回 子,卯,午,酉, の年毎に実施 旧暦の8月,現9月	3回 約10日間 1回につき 2泊3日	隋代 以降
	挙人覆試 (きょじんふくし) (受験者数を減らす)	(会試の受験資格)	挙人 (別称,郷進士) (きょうしんし)	2万人 以上	5等に分 1～3等 が合格	天子に任命された 数人の閲巻大臣 (えっけんだいじん?)	北京の貢院	一般は郷試の 翌年2月15日 北京近郊の者は 郷試の年の9月	1回 1日間	清代 以降
	会試 (かいし) 貢挙 (こうきょ) (科挙の中核試験)	貢士 (こうし) (会試覆試の 受験資格)	挙人	1万～ 2万人	200～ 400人	礼部尚書 (文部大臣) (別称,知貢挙)	北京の貢院 (礼部= 役所)	郷試の翌年3月	3回,10日間 1回につき 2泊3日	隋代 以降
	会試覆試 (かいしふくし) (殿試の予備試験)	(殿試受験資格)	貢士 (資格上は挙人)	400人 以上?	6等に分 1～3等	天子に任命された 数人の閲巻大臣	紫禁城 保和殿	郷試の 翌年4月16日	1回 1日間	清代 以降
	殿試 (でんし) (高級官人への道)	進士 (しんし) (朝考の受験資格)	貢士 (進士と呼ぶ事も)	200～ 300人	全員 合格	皇帝・天子 (採点者は読巻大臣)	紫禁城 保和殿	郷試の 翌年4月21日	1回,1日間 (日没まで)	宋代 以降
高級 官人 登用 試験	朝考 (就職試験) (官人の将来 を左右する)	庶吉士の官 (成績1等の者) (散館考試,受験資格)	進士 (状元,榜眼, 探花,は例外)	200～ 300人	3等に分 成績1等 約30人	翰林院官 (かんりんいんかん)	紫禁城 保和殿	郷試の翌年 4月28日頃	1回 1日間	清代 以降
	散館考試 (翰林院の卒業試験)	翰林院の編修 (成績1等の者)	庶吉士の官 (朝考成績1等)	15～ 46人	3等に分 成績1等	翰林院官?	紫禁城 保和殿	次回の殿試の直前 3年後の4月18日頃	1回 1日間?	

※受験者・合格者数は、各地により異なる為、概算の人数。また全国人数と各試験場人数が混在しており要注意。あくまで試験倍率の目安。
※断り書きがない限り、日付は全て旧暦で表記。
※不確かな情報には?を付記。
※『学校試・童試』とは、国立学校の生徒になる為の、入学試験。生徒(生員)には、科挙試験の受験資格が与えられる。
※『歳試』とは、国立学校内で行われる、生徒の実力を試す試験。成績不振者には、ペナルティがかせられる。
※科挙試験は、『郷試・会試・殿試』、の3つの主要な試験と、それに付属する3つの予備試験、『科試・挙人覆試・会試覆試』、から成る。
※『朝考・散館考試』は、科挙の合格者・進士の、官人としての将来を左右する、重要な就職試験。
[読み]: 考棚(こうほう?),国子監(こくしかん),提督学政(ていとくがくせい),貢院(こういん),礼部尚書(れいぶしょうしょ),知貢挙(ちこうきょ),
読巻大臣(どっけんだいじん?),庶吉士(しょきつし),散館考試(さんかんこうし?),状元(じょうげん),榜眼(ぼうがん),探花(たんか),

科挙試実施年度

	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	いの
十二支→	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
実施試験名→	郷試	会試・殿試		郷試	会試・殿試		郷試	会試・殿試		郷試	会試・殿試	

(3年毎に実施)



演劇の誕生と負心文学

〔解説〕

十二世紀の末、中国の江南で南戯と呼ばれる本格的な演劇が誕生した。明の徐渭の『南詞叙録』によれば、この草創期の演劇では、科挙によって富と地位を得た男が、不遇な時代を支えてくれた女性を裏切るという「負心」をテーマとした作品が上演されていたという。

科挙の受験資格は男性だけに限られていたため、男女の格差が広がったためである。

莆仙戯「王魁与桂英」

中国の文化IX 第13回

北宋時代(下)

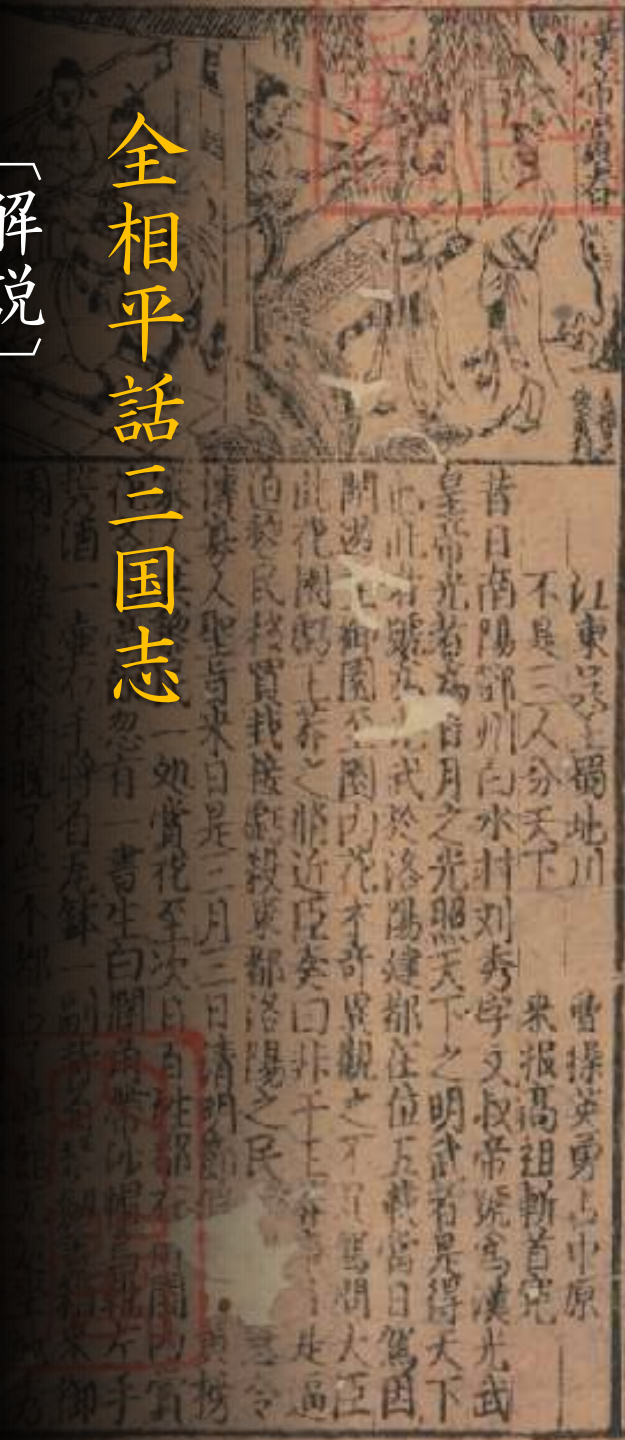
三国志の誕生

俗文学＝庶民文学の時代へ

日本で藤原氏一門が権勢を極めていた平安時代、中国では武人の台頭によって貴族の時代は終わり、庶民の時代が始まっていた(唐宋変革期)。

文学の主体も貴族から庶民に代わり、詞の隆盛や本格的な演劇の誕生とともに、史書を素材とする「説古話」と呼ばれる歴史講釈が人気を博していた。

「説古話」は、出版業の発展とあいまって、仏教の絵解き講釈を模した、挿絵入りの通俗読み物として出版された。その一つが元代に刊行された『全相平話三国志』である。



全相平話三国志

〔解説〕

元の至治年間(一三二一～三)に建安(現在の福建省建甌)で刊行された歴史白話小説の一。

北宋の都・開封で語られていた「説三分」など、初期の三国志物語の姿をいまに伝える貴重な資料。

全相平話三国志

〔解説〕

『全相平話三国志』の「全相」とは、すべての頁に挿絵があることを指す。

唐代、仏教の教えをわかりやすく伝えるために行われた絵解き講釈「変文」を模したもので、内容的にも因果応報や輪廻転生といった仏教思想の影響を強く受けている。

正史から小説へ

600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 | 東晋 317-420

北朝 439-589 | 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 | 北宋 960-1127

金 1115-1234 | 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

西晋の陳寿、正史の三国志を著す

劉宋の裴松之、正史三国志に注をつける

仏教の因果応報・輪廻転生思想

絵解き講釈

書籍出版

宋で三国志講釈の説二分

元で全相平話三国志が出版される

俗文学＝庶民文学の時代へ

モンゴル民族が建てた元の支配を脱し、漢民族王朝が復興した明代になると、外来の宗教である仏教の影響は排除され、民族の伝統思想である儒教思想をもとに新たな三国志物語が編まれた。これが『三国志演義』である。

仏教思想から儒教思想へ

600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 | 東晋 317-420

北朝 439-589 | 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 | 北宋 960-1127

金 1115-1234 | 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

西晋の陳寿、正史の三国志を著す

劉宋の裴松之、正史三国志に注をつける

仏教の因果応報・輪廻転生思想

絵解き講釈

書籍出版

宋で三国志講釈の説[illegible]

元で全相平話三国志が出版される

仏教思想を排除し、儒教思想による再構成

明の羅貫中が三国志演義を著す

まとめ

中国は、漢字を発明し、それを三六〇〇年にわたって使い続けることで、独自の文明を築き上げてきた。

春秋戦国時代の戦乱の中、秩序ある社会の復興を求めて誕生した儒教は、民族の精神的支柱となった。

一方、四世紀初めから六世紀末まで続いた南北朝時代には、サンスクリット語の仏教経典が漢語に翻訳され、隋唐時代には仏教が東アジアの世界宗教となった。

五代十国時代には、門閥貴族に代わって政治の担い手となった科挙出身の文人官僚たちによって書籍の出版が推進された。

宋代には、身分制度なき柔構造の封建社会と呼ばれる社会体制が確立し、文芸の主体も庶民へ移り、演劇、白話小説などの俗文学が誕生した。